



安積の歴史シリーズI



第12回 近世 近世への始動

柳田 和久 (やなぎだ かずひさ)

郡山市文化財保護審議会
委員



蒲生氏郷の会津配置

天正18年(1590)、豊臣秀吉は奥州・出羽の押えとして、蒲生氏郷を伊勢国松坂(三重県松坂市)より42万石で会津に配置した。氏郷は会津黒川(若松)を本城とし、領内に11の支城を配置した。安積郡では大槻^{おおつき}と安子島^{あこがしま}に支城を置き、大槻城に蒲生忠右衛門、安子島城に蒲生源左衛門^{じょうだい}を城代として入れた。⁽¹⁾ 忠右衛門は大槻村の内町に居住した。内町とは後の殿町^{とのまち}のことである。⁽²⁾

秀吉は奥羽の村々に刀狩りと検地^{けんち}を命じた。⁽³⁾ 刀狩りとは農民が刀・脇差など武器の所持を禁止したものである。検地とは耕作者より年貢を徴収するため、田畑の面積と収穫量を調査したものである。田畑屋敷を一筆ごとに測量し、面積、等級、生産高、耕作者を確定したのである。奥羽では初めての検地である。この検地に反対する者は一郷^{こう}でも二郷でも撫切り(切り捨て)にするという厳しいものであった。⁽³⁾

天正18年10月、大崎・葛西の旧家臣等が新領主に反対する一揆を起こした。蒲生氏郷と伊達政宗等が鎮圧にあたったが、政宗は一揆煽動の疑いを

懸けられ、米沢城から岩出沢城^{いわでざわじょう}(宮城県大崎市)に移され、二本松・伊達・信夫・長井・安達・田村・刈田郡等の所領は没収され、氏郷に与えられた。これにより氏郷の領地は92万石となった。支城は14ヶ所に増えたが、安積郡の大槻城と安子島城は廃止された。⁽⁴⁾

氏郷は、会津黒川を郷里の近江国蒲生郡の若松の森(滋賀県蒲生郡日野町)にちなんで若松と改め、城や城下町の整備にあたった。⁽⁵⁾

氏郷は、文禄4年(1595)に死去したため嫡子蒲生秀行^{ひでゆき}が継いだ。慶長3年(1598)、秀吉は秀行を家中騒動等を理由に領地を没収し、下野国宇都宮(栃木県宇都宮市)へ18万石に減封して移した。⁽⁵⁾

上杉景勝の会津配置

慶長3年、秀吉は秀行に代わり上杉景勝を会津に配置した。景勝は越後国春日山城^{かすがやまじょう}(新潟県上越市)より120万石で入封した。⁽⁵⁾ 景勝は若松城を本城とし、27ヶ所に支城を置き家臣を城代として配置した。安積郡は浅香^{あさか}、田村地方は守山を支城

とし、浅香へは安田能元^{よしもと}を、守山へは須田大炊助^{おおいのすけ}を城代として入れた。浅香とは安子島城である。慶長4年に大炊助を梁川に移し、本庄越前守^{えちぜんのかみ}を入れた。同年に越前守を福島に移し、守山へ竹俣利綱^{としつな}を入れた。⁽⁶⁾

関ヶ原の戦い

上杉景勝は、会津領内の街道の整備や橋梁の修築、及び領内村々の家数・人口の調査を行い、さらに、若松城の北西にある神指城^{こうしじじょう}の築城や、白石城・白河城等の修理を命じた。そのため、武器を集め、浪人を召し抱えているとの噂が飛び交い、景勝挙兵の情報が乱れ飛んだ。⁽⁷⁾

徳川家康は、景勝に上洛^{じょうらく}して弁明させようと書状を送ったが、景勝の宰臣直江兼統^{なおえかねつぐ}は返書を送り上洛に応じなかった。⁽⁸⁾

慶長3年(1598)に秀吉が逝去すると、吏僚派^{りりょうは}と武功派^{ぶこうは}の対立が一機に吹き出した。家康はこの対立を利用し、吏僚派である石田三成^{みつなり}に不満を持つ大名を巧みに取り込んでいった。

慶長5年、家康は諸大名に会津の上杉攻撃を命じた。家康は伏見城を鳥居元忠^{とりいもとただ}等に守備させ、6月18日に伏見城を出発し、7月2日に江戸城へ入った。同月21日に江戸を発ち、家康自ら下野国(栃木県)小山に陣を進めた。

家康は上方の石田三成等の動きを熟知した上で江戸を出発したのである。その主たる目的は、家康の命に従い上杉攻撃のため、すでに宇都宮等に進軍している秀吉恩顧の福島正則等40余将を、石田三成等と戦うために再編・組織することにあつたのである。⁽⁹⁾

景勝は会津の若松城を動かず、直江兼統は浅香城に入り全戦線の指揮にあたった。安子島から米沢までの各町^{てん}に伝馬^ま制^{せい}を設け、横川・中山・猪苗代・高柳・大塩・檜原・綱木・関の肝煎^{かんせん}に馬2疋ずつを

備えさせた。⁽¹⁰⁾ 安子島と米沢間の命令伝達の迅速化を図り家康勢に備えたのである。

家康のもとに、石田三成・島津義弘^{よしひろ}等が伏見城を急襲し、鳥居元忠が討ち死にしたとの報が届いた。

家康は宇都宮城を蒲生秀行・結城秀康^{ひでやす}に守らせ、直ちに関ヶ原に向かい、9月15日に関ヶ原の戦に勝利した。

家康は、首謀者の石田三成・小西行長^{ゆきなが}・安国寺惠瓊^{あんこくじ えけい}等を、京都市中を引き回し六条河原で処刑し、豊臣方の大名^{かいえき}を改易^{てんふう}・転封した。改易とは取り潰し、転封とは他の領地へ移すことである。改易・転封した領地に、徳川一門^{ふだい}や譜代^{ふだい}の家臣を新たな大名に取り立て配置した。

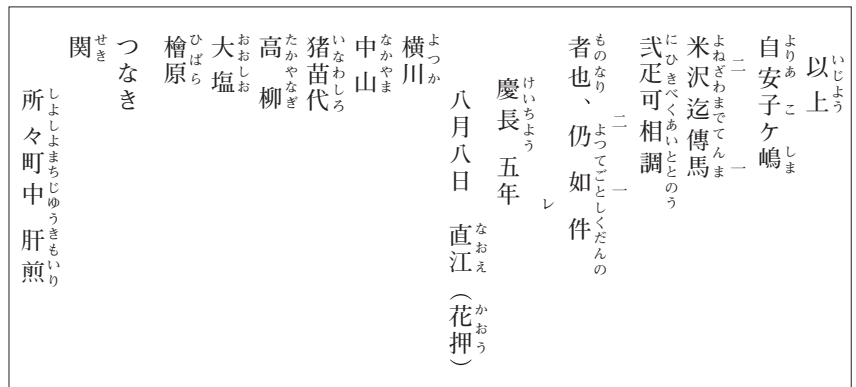
上杉景勝は、慶長6年(1601)に30万石に減封されて米沢へ転封となった。翌年には景勝と密約を交わした嫌疑により、常陸国(茨城県)水戸城主の佐竹義宣^{よしのぶ}を、25万5千石に減封して出羽国(秋田県・山形県)秋田へ転封した。⁽¹¹⁾

蒲生秀行の会津配置

慶長6年、家康は再び蒲生秀行を宇都宮より会津に60万石で入封させた。

秀行は、若松城を本拠地として領内12ヶ所に支城を配した。守山城には蒲生源左衛門を入れた。⁽¹²⁾

慶長17年(1612)、秀行は30歳で病死した。その跡は蒲生忠郷^{たださと}が継いだが、寛永4年(1627)に疱瘡^{ほうそう}のため25歳で病死した。忠郷には子がなかったため会津領は没収となった。⁽¹³⁾



第1図 直江兼統 伝馬手形の書き下し

加藤嘉明の会津配置

寛永4年(1627)に伊予国(愛媛県)松山より加藤嘉明が40万石で会津に入封した。嘉明は滝沢峠の開鑿や、慶長16(1611)年の大地震で被害を請けた若松城の修覆などを行ったが、寛永8年(1631)9月に死去した。嘉明の跡は嫡子の明成が継いだ。⁽¹⁾

加藤氏は若松城以外の支城を廃し、代わって家老の下に郡代、郡奉行、代官を置いて領内の支配にあたった。

安積郡の郡代は青木佐左衛門、その後は常川又右衛門等が勤めた。大槻城を廃し御殿とした。御殿とは藩主や郡代等の休宿泊所で、付近を殿町と称した。⁽²⁾

寛永20年(1643)、加藤明成は幕府に会津領の返上を願い出た。病気とも家臣の堀主水との紛争からとも言われている。

松川の合戦

関ヶ原の合戦は、慶長5年(1600)9月15日の1日で終わったが、伊達・信夫郡では、10月に入っても伊達政宗と上杉景勝の間で争いが続いていた。伊達と上杉の最後の決戦が福島で戦われた「松川の合戦」で、第2の関ヶ原とも言われている。

「松川の合戦」は、上杉勢が松川より福島に退いたため、政宗は上杉勢を追い信夫山麓の黒沼神社の辺に陣を進めた。梁川城代である須田大炊と車丹波等が城から討って出て、車丹波は正面から阿武隈川の本瀬に向い、須田大炊も川上から二手に分かれ攻め入った。この時、伊達勢も二手に分かれて川の上へ廻ろうとして備が乱れた。それに乗じて上杉勢は二方より攻撃した。そのため伊達勢は敗走した。須田は敗走する伊達勢の後陣へ斬りかかり、小荷駄・兵糧・玉薬や、伊達家の陣幕等を奪い福島城へ届けた。伊達の陣幕を奪ったのは梁川城主須田大炊の家臣曾田宇平次・中村仙右衛門である。奪った陣幕は梁川城主より福島城主の本庄越前守に届けたのである。⁽³⁾

松川の合戦が誤り伝わる

年代は下るが、白河城主松平定信が老中を辞したのち、寛政12年(1800)8月に飯坂温泉に湯治に出かけ、その路すがら各地で見聞した名所・旧蹟等を『退閑雑記』に著した。郡山では夜討川と虎丸の古瓦について記している。

夜討川では、「郡山宿を過ぎたあたりに川があり、その川を夜討川と云う、伊達政宗と上杉景勝が戦った所であり、上杉景勝の家臣本莊大和が伊達政宗の幕を奪った所である」と記載している。⁽⁴⁾ 景勝の臣が政宗の陣幕を奪ったことから「松川の合戦」である。定信は福島で起きた「松川の合戦」を、郡山で戦ったとしたのである。明治45年に出された『郡山町郷土誌』では『退閑雑記』の文章をそのまま引用しながら、「然レドモ之レハ伊達・上杉対陣にあらず、思フニ天正年間の佐竹・伊達対陣ノ時ノコトナラン」と、文章を付け加え天正16年(1588)の佐竹・蘆名と伊達政宗の合戦と書き替えたのである。このことが、郡山城は西ノ内(茶臼館)に所在したとなるのである。

註

- (1) 『二本松市史』4
- (2) 郡山市大槻町安齋家文書社会455、年不詳「槻里古事記」安齋家文書
- (3) 『二本松市史』1
- (4) 註1
- (5) 註3
- (6) 『白河市史』6
- (7) 註3
- (8) 『会津若松史』2
- (9) 高橋明「会津若松城主上杉景勝の戦い・乾一奥羽越における関ヶ原支戦の顛末一」(『福大史学』第80号)、高橋明「小山の「評定」の真実」(『福島史学研究』第91号)
- (10) 直江兼続伝馬手形(東京大学資料編纂所所蔵今井文書)(『会津若松史』8所収)
- (11) 註1・註3
- (12) 註2
- (13) 「会津陣物語」(近藤瓶城編『改定史籍集覽』第14冊)、平重道編集『仙台藩史料大成 伊達治家記録』、『北越太平記』新潟県立図書館所蔵
- (14) 『退閑雑記』(『福島県史料集成』第5輯に所収)